

# クラウドファンディング

## 碌山館修繕工事経過報告

幅谷 啓子

以前から雨が碌山館内部の壁に浸透し塗装の剝落や黒カビの発生が問題になっていました(図1)。令和三年八月十四日の終日の降雨は激しく、安曇野市明科地域に緊急安全確保が発令されるほどのものでした。翌



図1 塗装の剝落

十五日の天気は雨のち曇りでしたが、前日の大雨の影響で、碌山館北東の内壁上部からの雨漏りが床まで伝って落ちる状態となっていたのを発見し、雨漏りの対策を講じることが喫緊の課題となりました(この日は前日の大雨の影響で、特急あずさ、ワイドビューしなのが運休、中央高速道も通行止めとなりました)。

碌山館は昭和三十三年竣工から平成三年の窓枠の取り換えに至るまで清水建設株式会社のお世話になっていきますので、修繕をお願いしました。修繕に先立って、令和三年十二月二十一日、碌山館の不具合調査を行いました。その結果、外壁のひび割れ、軒差し上部のコーキング劣化、雨どいの破損、外壁モルタル笠木のひび割れ、出口扉の塗装劣化(図2)、外側サッシ周りのシールと塗装劣化、配管塗装劣化、雨樋カバーの劣化、室内では漏水による八メートルに及ぶひび割れと塗装の剝離、碌山の鐘のワイヤーの取り換えと固定、以上が修繕を必要とされ

る箇所であることが明らかになりました。大きな修繕工事から三十年以上経過していましたが、雨漏りの状況から早急な手直しが急務であると認識されましたが、新型コロナウイルス禍による入館者数の激減のため資金を捻出できる見込みがありませんでした。

そこで碌山館修繕工事費用をクラウドファンディングに挑戦することで調達することを令和四年二月の理事会に提案し、五月の理事会において企画会社レディーフォーを介してクラウドファンディングに挑戦することが了承されました。工事費用の見積は当初およそ五〇〇万円でしたので七〇〇万円を目標額に設定し七月十五日から八月三十一日までの期間で挑戦しました(図3)。

調達金額の第一目標七〇〇万円は七月二十八日に、第二目標二二〇万円は八月五日に、第三目標一八〇万円は八月二十四日にそれぞれ達成できました。そして、一〇八八名の方のご支援をい

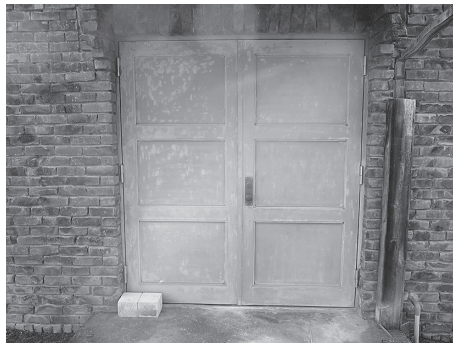
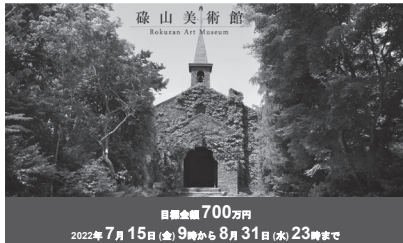


図2 扉の塗装劣化



安曇野のシンボル「碌山館」を修繕し、次世代に守りつなげたい

※クラウドファンディングとは、多数者が各自で目標額に達しない場合、1円1円のご支援が返戻されます。

碌山美術館は、保護中の作品と資料を永久に保存し、一般に公開するため、1959年4月に設立しました。施設維持は通常下の高小中学校の生徒をはじめとする約7万人の寄附によって賄われたという誇らしい美術館です。

開館に先月の月日による部外が保護中の作品を展示する「碌山館」を運営しており、雨漏りが発生し、修繕を緊急の課題としています。しかし、修繕費の額がより早くは現金を振り出しながら運営を続けているため、資金が見やまらず、それでもなんとか早期に修繕に取り掛かりたいため、クラウドファンディングに挑戦することになりました。

今回皆様からいただいたご支援は碌山館の修繕費に充てさせていただきます。安曇野のシンボルである碌山館を美しく保ち、次の世代へと大切な作品を守りつなげたいと思います。どうぞ皆様からのご支援、ご協力をお願いいたします。



図3 支援を呼びかけるチラシ

いただき、最終額は二三七〇二〇〇円となりました。  
 支援者の方々から寄せられた応援メッセージはどれも心温まるものばかりで、大いに勇気づけられ、当館のこれまでの諸事業が決して間違ったものでなかったことを再認識させていただくことができました。そのうちのいくつかを以下にご紹介いたします。

○小学生のころ、学校帰りに寄り道して美術館の入口の南側にある水が流れるところでよく遊んでました。鐘を鳴らしたりしたこともあって度が過ぎると、確か横山さんというおじさんに怒られたりしました。中学生の時は掃除もしました。川端康成、東山魁夷、井上靖の三人が来た時は見に行きました。

○碌山美術館は、私にとって大切な、いつまでも残っていてほしい存在で、タイムスリップ出来る場所です。

○つい先日、当美術館を訪れました。数十年ぶりだったと思います。入り口の門をくぐる時から言いようのない感銘を受けました。この場所がたくさんの人たちの手によって守られてきたからだろうと思います。日本にはこのような場所が必要です。微力ながら守り手の一員にと思いい寄付させていただきます。

○小学校の時の十円の寄付、また、五十年前の中学校生活が思い出されます。放課後に館内や庭の掃除をみんなで楽しく行なってきました。



図4 作品を移した碌山館内



図5 工事のため足場が組まれ、メッシュシートで覆われた碌山館

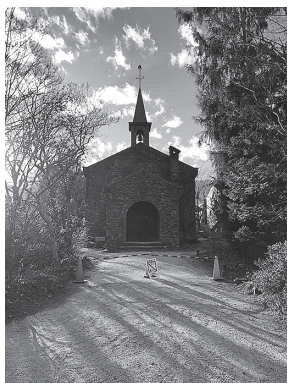


図7 足場とメッシュシートが外された碌山館



図6 塗装し綺麗になった扉

修繕工事は十一月八日から予定され、碌山館に展示されている碌山の作品を、前日七日の休館日に役員六名と職員で第二展示棟に資料とともに移動しました(図4)。工事期間中碌山館は立ち入り禁止となり(図5)、見学コースも第二展示棟からになりました。十二月八日に工事が無事終了し(図6、図7)、作品の移動を行い元の展示に戻し、十三日から碌山館の入館を再開しました。

○昔読んだ「日曜美術館」第一回の記事を番組再編集の本で読み感動しました。今年初めて念願叶って美術館を訪問することが出来、感動を新たにしました。「日本の彫刻界」とよびのける「聖地」のような大切な場所です。どうか、末永く、そして、ますます注目され発展されるよう祈っております。

クラウドファンディング支援金 収支概算

取 入		小計	合計
クラウドファンディング支援金		23,702,000	23,702,000

支 出		小計	合計
通信運搬費	募集案内送付	60,000	255,000
	返礼品送付関係	180,000	
	お披露目会案内送付	15,000	
消耗品	返礼品用包装用品	2,500	2,500
修繕費	碌山館 雨漏り修繕	4,950,000	5,929,000
	碌山館 サッシ塗替	550,000	
	碌山館 鐘ワイヤー交換（1月予定（見積））	198,000	
	第一展示棟 雨漏り修繕	231,000	
印刷製本費	クラウドファンディング案内チラシ	67,000	167,000
	『碌山美術館報』（ご支援者名掲載；増刷分；3月予定（見積））	100,000	
手数料	システム利用手数料 レディフォー	4,432,274	4,432,274
雑費	返礼品用グッズ	150,000	210,000
	お披露目会 記念品	60,000	
支出合計			10,995,774

収入	23,702,000
支出	10,995,774
繰越金 概算	12,706,226

図8 クラウドファンディング収支報告

費も含め六〇〇万円、取扱手数料四四〇万円、印刷代・返礼品・お披露目会・送料他五七万円でおよそ一一〇〇万円となり、残った支援金は積

み立て、今後の構築物他の維持管理に役立てます（図8）。  
 三万円以上のご支援をいただいた法人の方々のお名前を受付入口に（図9）、掲載許可をいただいた個人、法人の方のお名前は、ホームページに掲載してありますし、同じものを次頁以降に掲載してあります。  
 前記で一部ご紹介いたしました応援メッセージは、碌山美術館にお越しいただいた入館者の皆様や当館に関わっていただいた皆様の温かい思いにあふれていますし、これからの美術館運営にとっての指針となるご意見や励ましのお言葉もありました。応援いただき、誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。これらの応援メッセージは、入館者の皆様に閲覧していただけるように休憩室（グッズベリーハウス）に備えました。  
 今後とも碌山美術館を末永く応援していただけますよう、お願い申し上げます。



図9 受付にあるご支援者様のプレート（法人）